

各水試発トピックス

試験調査船金星丸の元二等航海士浅野文一氏が 瑞宝単光章を受章されました

令和3年4月29日付けで令和3年春の叙勲が内閣府から発令され、水産試験場の試験調査船に長年勤務された浅野文一さんが瑞宝単光章を受章されました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5月27日に函館水産試験場において伝達式が執り行われ、志田場長より労いとお祝いの言葉とともに勲章が贈られました。

浅野さんは昭和59年に北海道立稚内水産試験場の試験調査船北洋丸の甲板員として採用されました。平成5年から釧路水産試験場の試験調査船北辰丸、平成7年から中央水産試験場の試験調査船おやしお丸、平成10年からは函館水産試験場の試験調査船金星丸に甲板長として勤務され、平成14年には二等航海士に昇格、平成31年3月に定年退職を迎えられました。

平成12年には初代金星丸（69トン）から2代目金星丸（151トン）への代船建造に携わられ、平成13年1月に無事竣工を迎えると、道水試試験調査船では初となるワープネットウインチを導入したオッタートロール調査の実施など、漁撈作業の最前線で甲板長として指揮をとり、調査の成功に貢献されました。

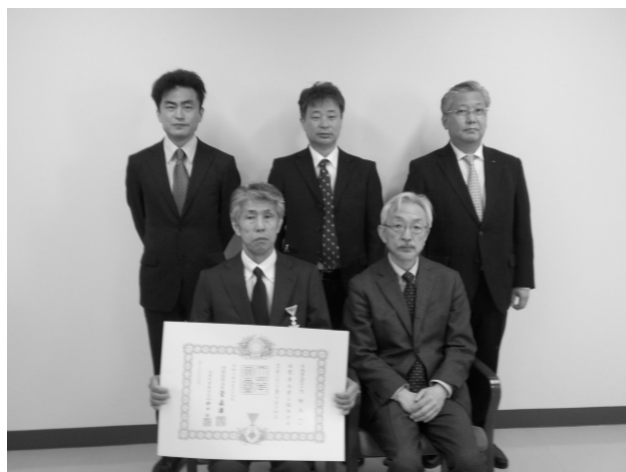
平成14年からは、二等航海士として船の運航の面で活躍されました。とくに、船舶の往来の多い津軽海峡を24時間かけて何度も縦断往復する ADCP 観測調査、設置漁具の多い噴火湾内でそりネットを曳網してアカガレイの稚魚を採集する調査など、気の抜けない運航にご尽力いただきました。浅野

さんが金星丸において新たに築かれた津軽流量の観測、そりネット調査によるアカガレイの漁獲加入量の予測などは、現在でも函館水試の重要な調査業務として継続されています。この度瑞宝単光章を受章されましたことを心よりお祝い申し上げます。

(板谷和彦 函館水試調査研究部)



志田場長から勲章を伝達されました



伝達式のあとの出席者記念写真